

徳島県・明治大学との連携によるモラエス顕彰事業の整備と充実

事業のポイント

- モラエス関連講演会の開催。
- モラエス顕彰事業の実施と充実化。
- モラエスによる地方創生への取組。
- 文化事業とグローバル化教育。

事業の概要

1. 事業の目的

本事業は、2013年11月に徳島県、明治大学、徳島大学の間で結ばれた連携交流協定を踏まえ、さらに他大学や関連団体、関連機関と連携し、モラエスの顕彰事業を継続発展させると同時に、モラエス研究に新たな側面と研究の展開を図ろうとするものである。多様な連携によって、既にモラエス研究の貴重な資料も見つかっているが、顕彰事業を発展させ、モラエス関連の資料の整理と研究により、研究の充実と発展、並びに国内外の連携を基にしたモラエス顕彰の充実化により地方創生に寄与することを目的としている。

2. 事業の取組状況

平成27年度は研究例会・読書会を10回開いた(4月25日、5月30日、6月27日、7月25日、8月29日、9月26日、10月31日、1月30日、2月20日、3月26日)。

また、在日ポルトガル大使が平成27年10月31日から11月2日にかけて急遽来徳されることとなり、フランシスコ・シャヴィエル・エステヴェス大使ご夫妻並びに、在ポルトガル前大使四宮信隆氏ご夫妻をお迎えしての談話会、並びに関連事業として鶴澤友輔(三木千佳子)氏による「阿波人形浄瑠璃講座」を10月31日に臨時モラエス館及びげやきホールにて開催した。11月1日には、モラエス通り命名40周年式典に大使ご夫妻をお迎えし、佐藤征弥准教授が「モラエスとともに暮らす」と題して西富田公民館で記念講演を行った。

また他に、月本一史氏・遠藤治郎氏・MT氏による「ポルトガル「ファド講座」」を10月14日に開催、徳島県立総合大学の「まなびーあ徳島」で宮崎隆義が「モラエスの愛した徳島」と題して11月14日に講演を行った。さらに、高校生向けとして、徳島文理高等学校で宮崎隆義が「グローバルと異邦人」と題して11月16日に講演を行った。さらにまた、11月21日には第17回徳島県民文化祭分野別フェスティバルで徳島ペンクラブ主催の「モラエス文学の魅力」として宮崎隆義が「モラエスと小説『孤愁』—文章から浮かび上がる人物たち—」と題して特別講演を行った。

平成28年3月17日には、上智大学市之瀬教授を招き、「ポルトガル—独裁、革命、デモ行進」と題しての講演を、3月26日には天理大学深沢教授を招き「もうひとりのラフカディオ・ハーン—ポルトガルの文人外交官モラエス—」と題しての講演を実施した。講演会や講座等については、いずれも徳島新聞や四国放送、NHKでも報道された。

事業代表者・連絡先

宮崎 隆義(大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部・教授)
〒770-8502 徳島市南常三島町1-1
tel / fax: 088-656-7131
e-mail: miyazaki.takayoshi@tokushima-u.ac.jp



3. 事業実施による成果と今後の展開

本事業実施による成果等は、総合科学部モラエス研究会編『「モラエス顕彰による地域創生」プロジェクト論集』(第2巻)として3月に刊行した。モラエス顕彰事業の実施により新たな資料も提供され、研究も充実している。また、こうした文化面による大学の地域連携を強化することで、地方創生に向けての大きな一歩ともなっている。同時に、モラエスということで、大学や高校でのグローバル教育、人文社会面でのグローバル展開に寄与することも見込まれる。また、さらなる発展と研究の充実のために日本学術振興会・科学研究費補助金の挑戦的萌芽研究に「グローバルリズムにおけるポルトガル文外交官モラエス顕彰の再構築」として申請している。さらにまた、リスボン新大学の博士課程大学院生が、モラエスを描いた映画『恋の浮島』を中心とするプロジェクトを企画しポルトガルのオリエンテ財団に申請を行っており、その申請に協力している。



知的財産を活用した地域連携型創造教育手法の開発事業

事業のポイント

- 知財力強化、知財活動の活性化を目的に、複数の教育機関、地元企業などが連携し、地域全体の活性化、知的財産への興味・意識付け強化を図る。
- 地域企業の知的財産ニーズに基づき、学生が知財分析などを通してアイデア、デザインを創出することにより、産官学(学生)が連携した総合的な知財意識向上、知財創出を図る。

事業の概要

1. 事業の目的

日本は経済協力以外の方法で世界やアジアに貢献することが求められてきている。このような背景から、知的貢献が日本の経済戦略で重要な地位を占めることになる。長期的な取組では、社会基盤を構成する人的育成が強く望まれており、大学と地域企業が連携した活動などを基盤とした人材育成が望まれる。このような観点から、これまでに、自主的に問題を解決し、新たな価値を創作できるような人材を育成できる教育推進を地域企業と協力して推進するとともに、学生自身が地域企業のニーズを解決できるアイデアを創出する授業の展開を図ってきた。本年度は、本取組を更に発展させ、企業の技術者による講義や工場見学、学生と地元企業とのミーティングなどを実践した。本事業を通じ、教育機関、地域企業、行政などを含めた総合的な活動を行い、能動的な人材育成、徳島県全体の知財意識向上、地域の活性化、有能な人材確保への貢献を図った。

2. 事業の取組状況

本事業の特長は、大学、高専、高校などの教育機関と地域企業が連携し、学生自らが知的財産を創出することを促す「特色ある教育」を推進する点にある。本事業の中で、地域企業との情報交換や工場見学などを行い、地域企業の知的財産ニーズに基づき、学生が自らのアイデア、デザインを創出することにより、地域と一体化した知財意識の向上を図っている。

本年度の事業では、地元企業の協力を得て、企業の技術者による講義(徳島大学での授業)を行い、企業における発明案件とその活用例を実際の製品を通して具体的に学ぶ機会を設けた。また、当該企業の協力を得て、工場見学を行い、学生と地元企業とのミーティング、企業ニーズを対象とした学生発明の推進など、より実践的な取組を行った。本授業成果は、パテントコンテスト(文科省他が主催する全国レベルのコンテスト)に応募され、平成27年度は4件が特許出願支援対象者に選定されて表彰を受けた(大学部門の表彰対象:11件)。平成27年度表彰案件の各テーマは以下の通りであり、地域企業のニーズに基づく発明も含まれている。(http://www.inpit.go.jp/jinzai/contest/patent/patent201512.pdf)

- ・雨の日でも早く乾かすことができる部屋干し物干し竿
- ・電源を必要としないモータ式ドアクローザ
- ・直線を切断するハサミ
- ・靴のべろヨレ防止靴べら

上記案件に関しては、特許出願のための弁理士との面談

事業代表者・連絡先

出口 祥啓(ソシオテクノサイエンス研究部 工学部・教授)
〒770-8506 徳島市南常三島町2-1
tel: 088-656-7375 fax: 088-656-9082
e-mail: ydeguchi@tokushima-u.ac.jp

や発明の試作化などへの取組が推進されている。今後、徳島県の地元企業との連携を強化し、学生のアイデアが徳島県の産業に活用されるような仕組みの構築を図っていく。



企業における開発技術見学風景



企業技術者による発明案件とその活用例の説明風景



企業技術者とのディスカッション風景

徳島県内脳卒中疾患を含めた神経疾患のwebカンファレンスシステムの構築 (Tokushima Network)

事業のポイント

- 我々の構築するシステムは、カンファレンスルームとスマートホン、タブレットを結ぶ相互方向のカンファレンスシステムで、カンファレンスルームと個人を結ぶシステムである。
- 患者紹介元医師、海外出張中、自治医科大学出身者で僻地診療所等にいる医師など、どこからでも、新たな設備を設置することなく安価に行える。
- 他施設とのネットワークを構築することにより、四国では症例数の少ない疾患でも、自施設にいながら経験可能となる。

事業代表者・連絡先

永廣 信治 (脳神経外科長・脳卒中センター長)
〒770-8503 徳島市蔵本町3-18-15
tel / fax: 088-633-7149
e-mail: nagahiro.shinji@tokushima-u.ac.jp

事業の概要

1. 事業の目的

部屋と部屋を結ぶテレビカンファレンス、webカンファレンスは、既に企業等では行われている。我々の構築するシステムは、カンファレンスルームとスマートホン、タブレットを結ぶ相互方向のカンファレンスシステムで、カンファレンスルームと個人を結ぶシステムである。これは、インターネット環境内であれば、どこからでもカンファレンスに参加でき、比較的安価に構築できる。本事業の目的は、地域の医療レベルの向上を図ると共に、徳島大学医学部地域枠や、自治医科大学卒業後の懸案である、僻地勤務期間においても、継続して最新の医学知識を修得できる環境を整えることである。

2. 事業の取組状況

現在、脳神経外科、神経内科が脳卒中カンファレンスを行っている徳島大学病院東棟棟5Fのカンファレンスルームにwebカメラ、高集音マイクを設置し、セキュリティシステムにより個人情報漏洩の心配のないネットワークを

構築している。昨年までの徳島県立海部病院、高知赤十字病院、HITO病院(愛媛県四国中央市)、西祖谷診療所に加え、新たに徳島赤十字病院、四国こどもとおとなの医療センター、広島大学てんかんセンターの7か所との抄読会、症例検討をウェブカンファレンスにより週2回開催している。

3. 事業実施による成果と今後の展開

各病院との症例検討会、抄読会を行うことにより、専攻医がどこの施設に勤務していても等しくカンファレンスに参加できるようになったため、医療知識の向上、症例の相互相談が可能となり、双方での最新知識獲得のツールとして大いに活用できている。特に、広島大学てんかんセンターとの合同カンファレンスでは、四国では症例数の少ない「てんかん」に関して、知識・技術を習得することができ、治療成果が向上している。今後は、徳島県内だけでなく、さまざまな病院、施設間でのネットワークを構築し、さらなる医療レベルの向上を図る予定である。



糖尿病発症者に対し、実行可能な生活習慣改善支援プログラムを用いた医療経済効果の検証

事業のポイント

- 生活習慣の改善に向け、患者自身による自発的な目標設定と、生活様式に合わせた実行可能な行動変容の患者自身による決断・実施とを支援するカウンセリングの実施。
- 上記カウンセリング効果の向上に向け、心の知能指数EQ向上のためのトレーニングプログラムと上記カウンセリングとの連結。

事業代表者・連絡先

船木 真理 (糖尿病対策センター・センター長)
〒770-8503 徳島市蔵本町2-50-1
tel / fax: 088-633-9679
e-mail: m-funaki@tokushima-u.ac.jp

事業の概要

1. 事業の目的

糖尿病発症予防、重症化予防には生活習慣の改善が不可欠である。食習慣や運動習慣などの生活習慣は個人の生活様式により大きな影響を受けるため、誰でも適応可能な生活習慣指導法はない。一方、保健・医療の現場ではリソース不足のため、糖尿病発症或は重症化のリスクの高い対象者に対し、個人の生活様式に合わせた指導は困難を極めていた。そのため糖尿病発症や重症化の原因となる生活習慣が多くの場合、放置されている。我々はこれまで、糖尿病患者に対し、生活習慣改善に繋がる行動変容を過度な負担をかけず、かつその生活実態に応じた形で促すプログラムの試作版を作成し、その効果を検証できている(図1)。本プログラムを民間の事業者へ技術移転し、広範に実施する際の課題抽出と解決策の提案とを本事業の目的とした。

2. 事業の取組状況

これまでも糖尿病患者の生活習慣改善プログラムは多数開発されてきたが、民間の事業者による事業として成立し、普及に成功したものはまだ存在しない。その主な原因は、補助金などの公的支援なしにコストと収益が合わないことにある。受診者を集団としてみた場合、これまで開発したプログラムで一定の効果を確認できているが、受診者個人で見た場合、生活習慣改善に至らない例も20%程度の頻度で見られた。このようなプログラムに反応しない受診者では、生活習慣改善に対するモチベーションが低い傾向が見られ、モチベーション向上によりプログラムに反応する可能性が考えられた。また生活習慣改善プログラム終了後の追跡調査で、一旦改善した生活習慣が続き、再度増

悪する傾向が見られた。生活習慣改善プログラムのコストを考慮すると、一年以上継続して受診することは、民間企業による事業化を図る上で大きな障害となる。したがって生活習慣改善プログラム受診の効果を継続させるため、心の知能指数と呼ばれるEQを日常の訓練で能力を向上させてやる気度を向上させる「糖尿病EQプログラム」と生活習慣改善プログラムとの連結を行った。

3. 事業実施による成果と今後の展開

「糖尿病EQプログラム」と「生活習慣改善プログラム」の連結により、生活習慣改善率の向上とその状態の維持が可能となることを、事業化候補企業と共に実証する。



図1. 生活習慣改善プログラム実施の現場

ICTを活用した糖尿病地域医療連携におけるEHRからPHRへの展開

事業のポイント

- Electronic Health Record(EHR)の地域連携基盤である徳島糖尿病克服ネットワークを介し、患者本人への診療情報提供するPersonal Health Record(PHR)の有用性を明らかにする。
- PHRとして記録される患者の日々の身体計測(血糖、体重、血圧、歩数)に基づく、個別化医療の診療体系を確立する。

事業の概要

1. 事業の目的

徳島県の最重要健康課題である「糖尿病死亡ワーストン」を克服するため、糖尿病臨床・研究開発センターでは、地域医療連携基盤である徳島糖尿病克服ネットワーク(Tokushima Diabetes Overcome Network: ToDO-Net)を推進してきた。

ToDO-Netは医療機関から診療情報を収集し、医療者間で情報共有を行う仕組みである。これまで、ToDo-Netの実効性向上を目的として、より多くの医療機関が参画可能なICT基盤構築に取り組んできた。平成26年度においては、国際標準規格であるIHE-ITI統合プロファイルを導入し、メーカーにかかわらず全医療機関を繋ぐ基盤を整備している。

より効果的な糖尿病診療の推進には、ToDo-Netに蓄積された診療情報を活用する手段の開発が重要である。そこで、患者本人に情報提供することで自己の治療目標と現在の病状を明確にし、自己管理を支援する仕組み、Personal Health Record (PHR)の研究開発が必要である。

2. 事業の取組状況

糖尿病臨床・研究開発センターでは、糖尿病患者が、自己の所有するスマートフォンを用い、血糖自己測定値、歩数、血圧、体重などの自己測定データを記録、可視化するPHRである、糖尿病疾病自己管理ツールを、平成26年度産学官連携推進部産学連携研究者育成支援事業(シーズ探索タイプ)において開発した。これをベースに、医療機関における検査結果を取り込み、糖尿病合併症である大血管症、細小血管症の病期も可視化する機能を加えた、「e-糖尿病ダイアリー」を株式会社ウェルビーとの共同研究により開発した。

「e-糖尿病ダイアリー」を用い、患者と医師が同じ情報を共有しながら診療することで、血糖コントロールや合併症などの検査結果、その治療方針、さらに血糖、血圧、体重等の治療目標を、医師はより分かり易く指導でき、患者はより明確に理解できることが期待される。

その有効性を検証するため、自己測定センサー製品を有する、アークレイ株式会社、株

事業代表者・連絡先

松久 宗英(糖尿病臨床・研究開発センター・センター長)
〒770-7587 徳島市蔵本町3-18-15
tel: 088-633-7585 fax: 088-633-7589
e-mail: matuhisa@tokushima-u.ac.jp

株式会社東芝・ヘルスケア社の協力も得て、本事業と戦略的情報通信研究開発事業(SCOPE)において無作為前向き介入研究を実施している(図1)。平成28年3月終了予定であるが、現在までのところ血糖値などの自己計測データの自動可視化は、患者の記載作業の負担軽減につながり、また医師による遠隔診療の実現に貢献できることが示唆されている。

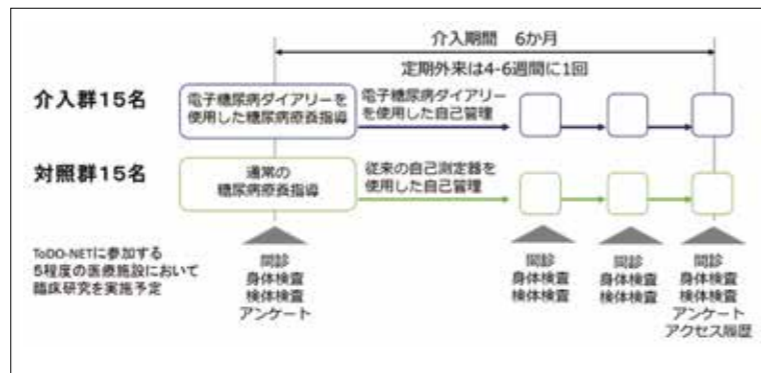


図1. 無作為前向き介入試験プロトコル

3. 事業実施による成果と今後の展開

自己の病状、治療方針と目標に対する理解が向上すれば、治療の継続性や遵守率も向上し、より良い治療成果に繋がることが期待できる。

本介入研究により、PHRの臨床における有用性を明らかにすると共に、EHRに蓄積された診療情報の具体的な活用方法、実運用での課題を明確にし、社会一般に普及可能なサービスを共同研究、戦略的情報通信研究開発事業を通して実現していく(図2)。



図2. 社会への波及イメージ

3Dプリンタの地域応用と社会イノベーション促進に向けたグローバル人材育成プログラム「ファブラボ in 徳島」

事業のポイント

- 徳島大学フューチャーセンター内に「徳島大学ファブラボ」を設置し、イノベティブなモノづくりによって、特色ある地方創生を先導するための徳島大学プログラムの開発。
- モノづくりで競争力のある地域の再構築を目指した人材育成を行う「場」を作るプログラムの推進。

事業の概要

1. 事業の目的

ファブラボ(Fabrication Laboratory)は、市民参加型ものづくり促進拠点であり、本事業は、徳島初のファブラボを徳島大学にて運営することを目的とする。昨年度の「徳島大学図書館ファブ」の実績を生かし、今年度は、徳島大学フューチャーセンター内に「徳島大学ファブラボ」を本格設置し、①イノベティブなモノづくりで特色ある地方創生を先導する徳島大学プログラムの開発、②モノづくりで競争力のある地域の再構築を目指すための人材育成を行う「場」を作るプログラムを推進する。

2. 事業の取組状況

今年度は、「徳島大学図書館ファブ」に参加した学生コンサルタントを中心に、学生や一般市民向けに、ものづくり講座を開催した。まず、学生コンサルタント5名にて、3D-CADや3Dプリンタに関する技術修得を行い、講座の準備を進めた。

そして、市民向けのものづくり体験講座を、8月9日に、工学部機械工学科棟M205室にて開催した。この講座には、小中学生の親子を中心に20組以上が参加し、3D-CADと3Dプリンタを用いたネームプレートの製作を行なった(図1)。

また、9月末にはフューチャーセンターに拠点を移し、ものづくり講座を徳島大学祭の企画の一つとして10月31日と11月1日に実施した。ここでは、ネームプレートとピンバッジの製作を行い、二日間で、27名が参加した。参加人数は少なかったが3Dプリンタの可能性等に興味を持っていただけた。このようなものづくり講座は2月以降も予定しており、受講生向けのテキスト等を準備している。

さらに、徳島県立阿波十郎兵衛屋敷等と協力して、「阿波人形浄瑠璃共創プロジェクト」を開始した。これは、大学と市民による地域文化の保存・伝承において、先端技術の応用や文化の担い手の育成を目指し、人形浄瑠璃のデジタルアーカイブや、3Dプリンタによる木偶人形づくり、阿波人形浄瑠璃キャンパス劇場の運営に取り組むものである。

これに関連し、12月18日にフューチャーセンターで人形浄瑠璃を公演し、30人程度が参加した(図2)。また、

事業代表者・連絡先

吉田 敦也(ソシオアーツアンドサイエンス研究部・教授)
〒770-8502 徳島市南常三島町1-1
tel / fax: 088-656-7897
e-mail: yoshida@tokushima-u.ac.jp

人形浄瑠璃デジタルアーカイブや3Dプリンタでの製作に向け、人形の形状計測がプロジェクトリーダーの浮田講師の研究室で実施している。

3. 事業実施による成果と今後の展開

「阿波人形浄瑠璃共創プロジェクト」によって、イノベティブなモノづくりで地方創生を先導する徳島大学プログラムが示されたと言える。今後は、3Dプリンタによる人形製作のワークショップ等を実施し、大学と市民による地域文化の保存・伝承・発展につなげていきたい。

また、「徳島大学ファブラボ」の設置で、ものづくりに関する人材育成を行う「場」を構築できたと考えられる。今後は、一般市民や企業を対象に、様々なものづくりの講座を定期的実施していく。



図1. ものづくり講座の様子



図2. 人形浄瑠璃の公演

LEDアート作品による地域貢献活動

事業のポイント

- アートによる地域活性化。
- 学生参加型の総合的教育実践プログラムの実践。

事業代表者・連絡先

平木 美鶴(ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス部・教授)
〒770-8502 徳島県徳島市南常三島町1-1
tel / fax: 088-656-7167
e-mail: hiraki.mitsuru@tokushima-u.ac.jp

事業の概要

1. 事業の目的

アートによる地域活性化としてLEDの光をテーマとした、作品の制作実習を通して地域の活性化と総合的教育実践プログラムの実践を計る。

2. 事業の取組状況

大学院生の授業「プロジェクト研究I」で作った作品計画を学部生授業「アート創生プロジェクト」にて共同制作をした作品の展示はLEDアート絆プロジェクト「助任ワンダーランド」(常三島キャンパス)にて、12月11日(金)～1月19日(火)まで展示をした。以下は作品の内容である。

LED装飾として、作品「ウズ」は、助任の丘に展示した渦潮をイメージしたものである。作品「ヒカリノナミキミチ」は樺並木を七色に彩った2作品。観客参加型作品「ヒカリノハコ」は、観客の距離に反応してLEDの色を変えて光る作品であるが今回は、周辺にミラーボールを配置して華やかさを演出した。今年の大大学院生が発案制作した作品は4作品で作品「告白」は、隠していたお互いの気持ちがLEDの色で分る2作品。1つは二人で脈波を計る計器を付けるとお互いの気持ちがLEDの色でわかる作品と告白の言葉に反応して告白ボックスが返答してくれる作品で

ある。映像作品としては「スポーツ支援CFとラインスタンプおみくじ」「三匹の子豚」「津波浸水震度仮想体験装置」を期間中2回公開した。

3. 事業実施による成果と今後の展開

「助任ワンダーランド」として常三島キャンパスをLEDで装飾する活動も今年で5年目となり、年々、徳島市民への認知度も高まり、定着した活動となってきた。オープニングにも多くの学生や教職員、市民の方々が参加し、地域の有志の方々がゼンザイを振る舞う等の企画も好評で参加した方々の交流も深める事ができた。また、学生の構想した観客参加型LED作品の制作活動もマイコンプログラムやシステム等を工学部知能情報工学科の技術専門職員の辻明典氏の技術協力を得る事で完成度の高いものとする事ができた。このような文系と工学の協力体制を作り出している事も成果である。今後の展開としては、文理工の融合による総合的教育実践プログラム体制作りを更に進めたい。また、来年度12月に徳島市主催の第3回徳島LEDアートフェスティバルが開催されるが、これまでの活動成果が認められ私たちの活動組織「徳島大学アート創生プロジェクト」が招待団体として作品出品する事になっている。



作品「ヒカリノハコ」



作品「告白」

南海トラフ地震に向けた地域継続戦略の構築と協働事業

事業のポイント

- 地域継続シンポジウム、自治体BCP策定研修会、遺体対応・遺族支援研修会等の開催。
- リアルタイム地震・津波被害予測システムの開発。

事業代表者・連絡先

中野 晋(環境防災研究センター・センター長)
〒770-8506 徳島市南常三島町2-1
tel: 088-656-8965 fax: 088-656-8017
e-mail: nakano.susumu@tokushima-u.ac.jp

事業の概要

1. 事業の目的

南海トラフ地震などの大規模広域災害に備えて、自治体や事業所の危機管理能力を高めることが喫緊の課題である。本事業では徳島県危機管理部、同商工労働部、同教育委員会と連携して平成26年度に引き続いて、大規模広域災害時の地域継続力を飛躍的に向上させるための地域継続戦略を検討し、その実現に向けた取組を実施する。

2. 事業の取組状況

①地域継続シンポジウム

10月22日(木)13時半～16時半、徳島県消防学校講堂、参加者48名、内容：パネルトーク「東日本大震災での地域の現状と課題」他。

②BCP策定講習会

県内4か所において自治体のBCP担当者を対象として、自治体BCP研修会を開催したほか、企業のBCP策定支援を実施。自治体BCP研修会の日程は次の通り。

1月8日(金)14時～17時、鳴門市役所

2月9日(火)13時30分～16時30分、阿南市役所

2月17日(水)13時30分～17時、阿波市役所

2月18日(木)13時30分～16時30分、徳島県庁

③徳島災害時対応研究会の開催

1月31日(日)13時30分～17時、徳島大学長井記念ホー

ル、参加者約100名、内容：講演「南海トラフ巨大地震時の災害医療のあり方」(関西大学・河田恵昭氏)

④教育継続計画策定モデル事業

徳島市立佐古小学校及び同千松小学校において、登下校時の安全教育(防災、防犯、交通安全)の支援を行ったほか、徳島県教育委員会による学校防災管理マニュアルの改訂作業に協力した。

⑤リアルタイム地震・津波被害予測システムの開発

総務省G空間防災システムとLアラートの連携推進事業「被害シミュレーションとデジタル道路地図(DRM)の融合等による災害対応業務即時プロジェクト」(代表：徳島県)において、地震動と津波浸水に係るシミュレーションとデータベース作成を担当。気象庁の震源情報を受信後に徳島県内の地震動と津波浸水予測値をDRMで利用できるためのシステム構築を行った。

3. 事業実施による成果と今後の展開

地域継続シンポジウム等の防災対策支援を通して、自治体、企業等のBCP策定やその高度化に大いに貢献できた。さらに、地震・津波被害予測システムの開発は南海トラフ地震に対する減災技術として極めて有効である。これらの取組をさらに進める予定である。



地域継続シンポジウム

神山学舎活性化事業

事業のポイント

- 若者に魅力ある地域づくり、持続する徳島づくりの未来設計プラットフォームを目指す。
- フューチャーセンター機能を持った未来の学校として神山町の神山バレー・サテライトオフィス・コンプレックス内に「神山学舎」を設置。

事業の概要

1. 事業の目的

若者に魅力ある地域づくり、持続する徳島づくりの未来設計プラットフォームを目指し、フューチャーセンター機能を持った未来の学校として「神山学舎」を新たに設置し、地域と一体となった合宿授業やトークイベント等の事業を実施する。

2. 事業の取組状況

平成27年5月30日、神山バレーサテライトオフィスコンプレックス内に、本学の学生と地域の人達が共に学べる、フューチャーセンター機能を持った未来の学校をコンセプトに神山学舎を設置した。

開設記念式典(参加約60名)では、看板除幕式、神山バレーサテライトオフィスコンプレックス内に「神山学舎」を設置することになった経緯等が説明され、開設記念講演が行われ、その後、2日間にわたり全学共通教育科目「スチューデント・アンバサダー」(参加学生23名)の授業が行われた。

フューチャーセンターの今秋オープンのイベントとして、全米で最も住みやすい街、全米で最も最も外食のために外出したくなる街、全米で最も出産に適した街、自転車の街などという数々の評価を受けている米国オレゴン州ポートランドに暮らすサキさん、そして、サードウェイブコーヒークリーエコーヒバリスタとして有名なジョエルをゲストに迎えて、ポートランドトークとコーヒーワークショップを6月14～15日(両日とも参加者は定員の15名)にわたり開催した。

ポートランド州立大学のスティーブ・ジョンソン博士との過去3年間の神山交流を、節目に、ポートランド/神山「往来学習プログラム」を提案し、学生、若者、地域住民、行政担当者、起業家、研究者らがまちづくりを目的に行き来しイノベーターとして育っていくブリッジング(架け橋)プログラムの実現に向け、何が学び合えるのか、地域資源活用、実際の交流滞在企画、実施上の課題を探るワークショップを12月16日(参加者29名)に開催した。

事業代表者・連絡先

吉田 和文(地域連携戦略室長、理事(地域連携担当)、副学長)
〒770-8502 徳島市南常三島町1-1
tel: 088-656-9752 fax: 088-656-9880
e-mail: chkoukenc@tokushima-u.ac.jp



看板除幕式



参加者との記念撮影

3. 事業実施による成果と今後の展開

若者に魅力ある地域づくり、持続する徳島づくりの未来設計プラットフォームを目指し、フューチャーセンター機能を持った未来の学校として「神山学舎」で、徳島大学全学共通教育科目「スチューデント・アンバサダー」、大学院地域科学専攻科目「地方創生特論」の授業および様々なイベントを行う予定である。



授業風景

上勝学舎活性化事業

事業のポイント

- 「中山間ビジネスモデル構築による、世界をリードする創発型人材の養成」を目的とし、「上勝学講座」をはじめとする人材育成事業。
- 「かみかつ観光交流協議会」をターゲットとして、協働形成の知見を活用した継続的な協働組織の情報形成のための双方向情報形成ツールを開発。

事業の概要

1. 事業の目的

上勝学舎は平成21年9月の開設以来、「中山間ビジネスモデル構築による、世界をリードする創発型人材の養成」を目的とし、「上勝学講座」をはじめとする人材育成事業や、「かみかつ棚田のめぐみ感動ビジネスプロジェクト」への支援や、「かみかつ観光交流協議会」設立に関するコーディネート等、上勝町の再生に向けて様々な事業を行ってきた。

本事業は、地域再生の核となる人材育成を行うため、地域の活動家や住民から学ぶ、合宿形式の学部、大学院の授業を行う。

また、地域再生に向けた事業においては、安価で継続的な情報形成(情報収集、情報共有、情報発信)の実現が求められているが、活動情報の増大に伴い、資金不足、情報処理の特定の人員への偏り、情報収集作業の増大等の要因により、継続的な情報形成が滞っている事例が多々見られる。

本事業は、これらの状況を打開するため、「かみかつ観光交流協議会」をターゲットとして、協働形成の知見を活用した継続的な協働組織の情報形成のための双方向情報形成ツールを開発する。

2. 事業の取組状況

ヒアリング調査を、かみかつ観光交流協議会関係者10名程度に、情報形成の現状調査・要望調査についてヒアリングを行い、ITC 専門家若干名に双方向情報形成ツール、ルール等についてヒアリングを行う。

地域利用環境調査を、かみかつ観光交流協議会関係者等30名程度に、また、集落利用環境調査を、集落等の協力を得て50名程度に、携帯電話、スマートフォン、タブレット、PC環境、メール利用環境、SNS利用環境を調査する。

双方向情報形成ツールの事例について、ルール等の文献調査、Web検索を行い整理する。

協働組織の情報形成のための双方向情報形成ツールのフレーム構築を行う。

協働組織の情報形成のための双方向情報形成ツールのWeb情報発信ツール作成を行う。

事業代表者・連絡先

吉田 和文(地域連携戦略室長、理事(地域連携担当)、副学長)
〒770-8502 徳島市南常三島町1-1
tel: 088-656-9752 fax: 088-656-9880
e-mail: chkoukenc@tokushima-u.ac.jp

3. 事業実施による成果と今後の展開

上勝学舎は、「中山間ビジネスモデル構築による、世界をリードする創発型人材の養成」を目的とし、「上勝学講座」をはじめとする人材育成事業や、「かみかつ棚田のめぐみ感動ビジネスプロジェクト」への支援や、「かみかつ観光交流協議会」設立に関するコーディネート等、上勝町の再生に向けて様々な事業を行う。



棚田感動ビジネスでの若者交流



棚田感動ビジネスでの若者交流

徳島大学・明治大学・徳島県連携事業

事業のポイント

- 各機関による教育・研究活動の包括的交流と連携・協力の推進による教育・研究の進展。
- 各機関が持つ教育資源や知的財産等を活用した社会貢献と人材育成。

事業の概要

1. 事業の目的

本事業は、徳島大学、明治大学、徳島県の教育・研究活動の包括的な交流と連携・協力の推進により、わが国の教育・研究の一層の進展に資することを目的とするとともに、各機関がそれぞれ持つ教育資源、知的財産及び人材と歴史、文化、自然を活用した連携事業を通じて、地域社会への貢献と人材育成に寄与することを目的とした事業である。

2. 連携協議会

平成27年6月2日(火)、第2回目となる連携協議会が徳島大学日亜会館(3階)共用室において開催された。協議会は、各機関から担当者が出席し、平成26年度に各機関に連携して実施した事業について報告を行うとともに、平成27年度に実施する連携講座等の事業が提案・審議され、承認された。

なお、この協議会は、各機関持ち回りで開催されます。

3. 連携事業

第3回目となる連携事業は徳島大学が主担当となり、「糖尿病と闘う～発症を予防し、重症化を止める～」と題してオープン講座が行われた。

この連携事業は、明治大学の公開講座であるリバティアカデミーの一環として行われ、平成27年10月10日(土)に行われたオープン講座では、約120名の受講者を集め、国立研究開発法人 国立国際医療研究センター 春日 雅人理事長・総長から「生活習慣と糖尿病」と題して基調講演、徳島大学病院 糖尿病対策センター 船木 真理センター長・特任教授から「徳島県における糖尿病に対する取組」と題して、明治大学 農学部 早瀬 文孝教授から「AGEsが関与する糖尿病合併症の発症機構と防御」と題して、徳島大学大学院 医歯薬学研究部 心臓血管病態医学分野 鳥袋 充生特任教授から「糖尿病と心臓血管病：その実態と対策」と題して一般講演が行われた。

続いて行われたパネルディスカッションでは、参加者から糖尿病についての質問が多数寄せられ、盛況のうちに終了した。

事業代表者・連絡先

吉田 和文(地域連携戦略室長、理事(地域連携担当)、副学長)
〒770-8502 徳島市南常三島町1-1
tel: 088-656-9752 fax: 088-656-9880
e-mail: chkoukenc@tokushima-u.ac.jp



オープン講座チラシ



春日 雅人氏
「基調講演」

4. 今後の展開

連携事業は本学と徳島県が交互に主担当となって開催しているが、平成28年度は徳島県が主担当となり、講座の開催を予定している。

また、このような事業のほか、各機関が持つ教育資源を活用した授業の開講、研究や学生の交流等、地域社会への貢献や人材育成への寄与、教育・研究の進展を目的とした様々な展開が期待されている。



パネルディスカッション

地域交流の拠点「ガレリア新蔵」

事業のポイント

- 展示室の常設パネルを用いて、徳島大学を広く紹介する。
- 企画展示などにより、徳島大学が所有するシーズ情報を発信する。
- ギャラリーフロアを学内外の団体やサークル等に貸し出し、利用に供する。

事業の概要

1. ガレリア新蔵の概要と目的

ガレリア新蔵「展示室」では、本学の沿革、組織、理念・目標、学部紹介などを和英2ヶ国語で標記した「常設展示」と、教育・研究等、本学の様々な活動を取り上げた「企画展示」を行っています。ギャラリーフロアは、学内外の団体やサークル等に貸し出し、展示や催しなどの利用に供することで、地域交流の場として利用が広がっています。

2. ギャラリーフロア開催状況

利用状況は下記のとおりです。

- ① 平成27年度徳島大学入学式ディスプレイ「桜と青竹のオブジェ」(4月6日～4月16日)
- ② 全学共通教育授業「サービスマーケティング」オフィシャルプログラム「LET KNOWLEDGE SERVE THE CITY」写真展(5月11日～6月8日)
- ③ 徳島大学国際センターサマースクールいけばな展「阿吽(あうん)」(8月4日～8月18日)
- ④ 大学開放実践センター公開講座「楽しみながら学ぶ書道」春期受講生作品展(8月27日～8月30日)
- ⑤ 平成27年度徳島大学職員文化祭(10月16日～11月6日)
- ⑥ 大学開放実践センター公開講座「楽しみながら学ぶ書道」秋期受講生作品展(12月21日～12月24日)
- ⑦ 平成27年度徳島大学しんくら展(2月5日～2月18日)
- ⑧ 平成27年度徳島大学書道部・OB会書道展(3月11日～3月13日)
- ⑨ 大学開放実践センター「楽しみながら学ぶ書道」冬期受講生作品展(3月17日～3月20日)
- ⑩ 平成27年度徳島大学卒業式・修了式ディスプレイを展示(3月23日～3月29日)

事業代表者・連絡先

吉田 和文(地域連携戦略室長)
〒770-8502 徳島市南常三島町1-1
tel: 088-656-9752 fax: 088-656-9880
e-mail: galleria@tokushima-u.ac.jp

3. 「ガレリア新蔵」ギャラリーフロアの利用法等

「ガレリア新蔵」ギャラリーフロアは、徳島大学事務局と同じ徳島市新蔵町の徳島大学地域・国際交流プラザ(日亜会館)1階にあります。

利用希望の方は、下記の「ガレリア新蔵Webサイト(URL)」で、「ご利用案内」から「ギャラリーの貸し出し」のページをご覧ください。使用申込にあたっては、下記サイトに掲載している申請書にご記入の上、申請書郵送先(〒770-8502 徳島市南常三島町1丁目1番地 地域創生課)まで郵送してください。

なお、現在、展示室については土曜日・日曜日は閉館とし、月曜日～金曜日の平日に開館しています。



ガレリア新蔵Webサイト:
<http://www.tokushima-u.ac.jp/gsl/>